

中國文化大學(台湾)との国際合同実習を行いました(2019年8月14日～20日)

2019年8月14日から20日までの7日間、台湾(台中市)の特有生物研究保育中心・低海拔試験場(LAES)で、中國文化大學(CCU)理学院生命科学系との国際合同実習を行いました。今回は、“森林の種類による土壌動物相の違い”がテーマ。CCUからは学部生11名、教員3名(Liao, C-C先生、Chen, Y-H先生、Tseng, I-H先生)、ティーチングアシスタント(TA)4名(Cheng, Y-C君、Huang, J-H君、Hsieh, Y-Hさん、Chen, B-L君)が、琉球大学(UR)からは学部生11名、教員2名(伊澤雅子、傳田哲郎)、TA1名(小林峻君)が参加しました。

8月14日の午前中に那覇空港を出発し、90分ほどで桃園国際空港に到着。空港ではCCUの教員と学生達が出迎えてくれました。早速グループ分けを行った後、大学のバスに揺られてLAESに向け出発です。



学生たちは初顔合わせでやや緊張気味。



CCUのバスに乗り込み目的地へ。

LAESの施設は、台中市の中心から北東方向、標高約700mの山の中です。沖縄島の与那覇岳(503m)よりも高い場所にありますが、背後に3000mを越す山々が控えていて、700mといえども“低海拔”です。



途中で小型車に乗り換えてLAESを目指しました。



LAESに到着し、宿舎前で使い方の説明を聞く学生たち。



到着したのは夕方。まずは晩御飯。



夜はLiao先生から諸注意などの説明と、自己紹介。

8月15日、いよいよ実習が本格的にスタート。まずは、動物相や森林などについて、英語での講義です。昼食を食べた後は、土壌動物相の調査方法に関する説明を受けてから、落とし穴式の罠(ピットフォールトラップ)を仕掛けに森の中へ入って行きました。



午前中は英語での講義。



トラップの仕掛け方について説明を聞く学生たち。



断続的に激しい雨が降る中、小降りになった隙を狙って林の中にトラップを仕掛けました。

8月15日の夜は、懐中電灯の明かりを頼りに野外観察会。多くのカエルやヘビに出会いました。



8月16日の朝はトラップに落ちた動物の回収、のはずだったのですが…。昨夜からの激しい雨で、トラップには水や泥が溜まっていた。これでは動物は採れません。悪天候の影響で、実習内容を急遽変更。新しいテーマは、“着生植物の大きさや根塊の動物相”。グループ毎に大きさの違う着生植物を採集し、根塊に住む動物たちを採集しました。アリが巣を作っている根塊もあり、グループによって作業の難易度にはかなり差があったようです。そのあとは採集した動物の名前を調べ、個体数を数えました。



雨の中、トラップの中を確認。



残念ながら、苦勞して掘ったトラップは水浸し。



予定を変更して着生植物を採集。雨の中の作業は大変でした。



大きな着生植物はまず屋外で切り分けました。



根塊の中に住む生き物を取り出します。



アリの巣に当たったグループは大変。



大きさを比較するため葉の長さも測りました。

8月17日から翌18日の午前中まで、データ整理と発表のための準備が続きましました。グループ毎に採集した動物のデータをエクセルに入力した後、根塊に住む動物の多様度指数を計算しました。その後、着生植物の大きさと多様度指数の相関を調べるなど、パソコンをにらみながら、頭を使う作業が続きました。ほとんど寝ずに作業をしていた学生もいて、表情にもかなり疲れた様子が。18日の午後には発表会が控えています。データの整理と解析だけではなく、発表内容を考え、プレゼンテーション用のファイルを作らなければなりません。各グループともに、ギリギリまで熱い議論が続きました。



発表の時刻が刻一刻と迫ってきます。焦る気持ちを抑えつつ、熱い議論と真剣な作業が続きます。

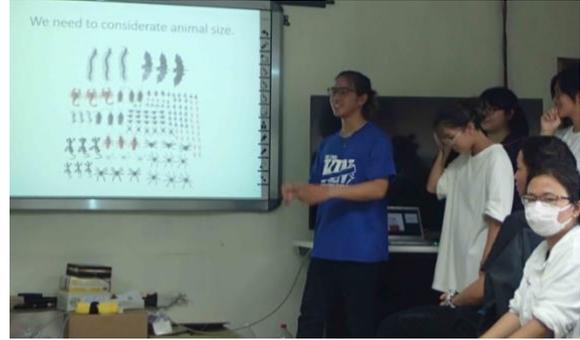
8月18日の午後、いよいよ発表の時を迎えました。サイコロを振って順番を決めた後、グループ毎に発表です。発表自体は10分程度ですが、その後の質疑応答は時間無制限。出された質問にうまく答えられず苦勞する場面も見られましたが、何とかみんな無事に発表を終えることができました。



サイコロを投げたのは何故かみんなURの学生。転がるダイスに運命を託します。



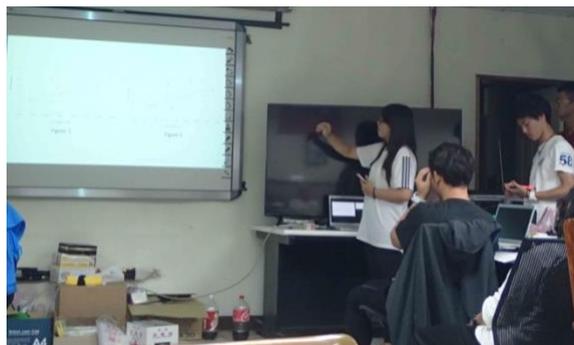
Team 4



Team 2



Team 3



Team 5



Team 1



他のグループからも質問が。

発表が終わった日の夜は、手作りの餃子パーティー。TA の皆さんのこだわりで揃えた食材を使い、みんなで餃子を包みました。それを強火にかけた鍋のお湯で茹で、タレをつけて食べる。本当に美味しかったです！！たくさん作りましたが、ほぼ完食でした。



買い出しに向かう TA の皆さん。



次々と餃子を包んでいく学生たち。



餃子を茹でる TA の Huang 君。



おいしー！

翌 8 月 19 日は、彰化県にある「鹿港」を訪れ、台湾の歴史に触れつつ、美味しい昼ごはんをいただきました。ここでも行動はグループ単位。初日に桃園国際空港で出会った時とは比べ物にならないくらい、打ち解けた様子が印象的でした。その後、西海岸にある「高美湿地」を訪れて干潟の生物について勉強した後、台北にある CCU に向けて移動です。



鹿港の街で古刹を訪れる。



そして腹ごしらえ。この店はまだ開いていませんでしたが…。



CCU の学生のエスコートで街を散策。



広大な高美湿地。



高美湿地の自然について説明を受ける。



美しい湿地を前に。

暗くなつてからたどり着いた CCU のキャンパスでは、生命科学系の先生や学生などが、豪華な料理とともに出迎えてくれました。疲労がたまっているにも関わらず、学生たちは大盛り上がり。昨年や一昨年の実習に参加した学生たちも会いにきてくれました。



CCU に帰ってきた一行を待ち構えていたのは、盛大な“さよならパーティー”。学生たちは疲れも忘れてノリノリでした。



パーティー後、学生は全員で夜市へ。台湾の夜を満喫しました。

そしていよいよ最終日。台北駅で荷物を預けて搭乗手続きをすませた学生たちは、みんな連れ立って台北の街に繰り出しました。空港で落ち合うまでは自由時間です。買い物をしたり、博物館へ行ったり。お互いの距離がさらに近くなった時間でした。



CCU のキャンパスを後にする一行。



一週間苦楽を共にした仲間達と。



やはり最初に出会った時とは表情が違います。



那覇空港に到着した UR の学生達。お疲れ様でした。

今回の実習も実りある素晴らしいものになりました。中國文化大學、そして、低海拔試験場のスタッフの皆さん、本当にありがとうございました！来年の実習は沖縄で行います。両大学の交流が、今後ますます発展することを願ってやみません。



Thank you for your friendship. Good bye and see you again!